

# 「大木のような政治家に」

加藤鮎子  
衆院議員

## 後援会新春のつどいで決意

先の衆院選山形3区で初当選を果たした自民党の加藤鮎子衆院議員の後援会新春のつどいが12日、鶴岡市のグランドエル・サンで開かれ、加藤氏は「地域にしっかりと根を張り高い視点も忘れずに、大木のような政治家を目指していく」とあらためて新人代議士としての決意を述べた。

鶴岡田川地区の後援会会員と、榎本政規鶴岡、原田眞樹庄内、阿部誠三川の3市町長、地元選出の自民党県議、市町議、各種団体の代表ら約600人が出席。池田徳博後援会長が「加藤鮎子代議士の誕生に感無量の思いだ」とあいさつ。榎本市長らが来賓あいさつし、自民の大沼瑞穂参院議員は「鶴岡から20年、30年後の女性総理を目指してほしい」とエールを送った。

加藤氏は先月下旬に召集

された特別国会での初登壇に触れ、「皆さんの声援を背中を感じながら初登壇した。地域の声をしっかりと国会に届ける、そのパイプ役となって頑張らねばどの思いを強くした」と振り返り、「自公が3分の2を超える議席を持ち、与党の力を強く感じた」と衆院登壇への印象を語った。

人口減少問題や東京一極集中の是正、農業政策など選挙戦で訴えたテーマへの取り組みを強める考えを示した上で、「3区内の皆さん、市町村と一緒に、この地域の地方創生に必要な施策や制度の支援のために頑張りたい。さらに子供たちの未来のために真の平和を希求する一年にしたい」と新年の決意を述べた。

この日は、酒田飽海地区の後援会新春のつどいも酒田市内で開かれた。



後援会初の新春のつどいで決意を述べる加藤氏＝鶴岡市のグランドエル・サン